

平成15年度「全国都市再生モデル調査」  
- 網走港川筋地区利活用調査 -



実施主体：北海道 網走市

調査の対象地区：網走港 川筋地区

調査の目的：網走港川筋地区は、流水砕氷船「おーら」の就航に合わせ、多目的ターミナルの整備を中心とした再開発事業を進めている。この再開発事業は、隣接する中心市街地の活性化や観光拠点となる施設整備など総合的に進める必要がある。これらの検討を進めるにあたっては、地域が自ら考え自ら行動することが重要であることから、地域住民によるワークショップや実証実験を行い、網走市の都市再生に向けた検討を行うものである。

多目的ターミナルを核とした交流拠点の整備

- 網走市のまちづくりの取り組み  
マスタープラン
- 網走市総合計画
- 網走市都市計画マスタープラン
- 中心市街地活性化基本計画
- 網走地域観光地づくり推進プログラム
- 主な関連事業
- 都市核整備事業
- 水辺プラザ整備事業
- 網走川景観整備事業
- 中心市街地活性化広場公園整備事業



整備のイメージ

網走港川筋地区

before



流水観光砕氷船「オーロラ号」



くじらウォッチング

再開発  
(都市再生)



after



感動朝市

## 本調査による活動内容の概要

### 「みなとまちづくり検討会」(ワークショップ)の開催

開催日時		検討内容	参加者
第1回	平成15年 12月19日 (金)	川筋地区の利活用方策についてディスカッション <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区の導入が期待される機能・施設の検討</li> <li>・中心市街地との連動の検討</li> <li>・年間を通した地区施設の利活用方策の検討</li> <li>・来訪者のための各種アクティビティ展開の検討</li> </ul>	40名
第2回	平成16年 2月12日 (木)	第1回ワークショップの結果及び実証実験結果を踏まえた川筋地区の将来構想についてのディスカッション <ul style="list-style-type: none"> <li>・主要検討テーマの抽出</li> <li>・検討テーマごとの具体化方策の検討</li> <li>・川筋地区のキャッチコピーの検討</li> </ul>	34名
第3回	平成16年 3月4日 (木)	川筋地区の将来構想(たたき台)をもとに、将来構想の実現化方策についてのディスカッション <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来構想(たたき台)の充実に向けた検討</li> <li>・具体化に向けて最初にやることの検討</li> <li>・川筋地区のキャッチコピーの見直し</li> </ul>	29名

### 【みなとまちづくり検討会での意見交換&発表の風景】



## 実証実験の開催

開催日時：平成16年1月23日（金）9：30～13：30

開催場所：網走港川筋地区及び網走市中心市街地

### 開催概要

<p>中心市街地の散策 参加者全員が中心市街地から網走港川筋地区までを散策 休憩ポイント(空き店舗を活用した交流施設)で商店街の協力により温かい牛乳などを提供</p>
<p>おーろら 体験乗船 流水観光砕氷船「おーろら」に無料で体験乗船(運航会社の無償協力) (当日は波浪の影響で港内のみのクルーズ)</p>
<p>臨時ターミナルでのイベント開催 ・「感動朝市」として飲食提供、感動朝市実行委員会の協力による物産販売 流水、魚氷、網走活き粋き7珍(網走を代表する7つの魚介類)などの展示</p>
<p>アンケート調査 市内、市外からの一般参加者を対象にアンケートを行い、147名から回収</p>

### 参加状況

種別	男性	女性	計
一般(市外)	14	18	32
一般(市内)	38	77	115
その他	75	18	93
計	127	113	240



【実証実験での「中心市街地の散策」「おーろら」体験乗船&飲食提供の風景】



## 調査の結果概要

### 川筋地区の将来構想の策定

#### 1. 将来像

川筋地区は網走港の北西部、網走川河口の市街地と接する位置にある地区としての立地特性を活かし、流氷の来るまち網走をアピールし、市民や観光客が“海の自然”と出会う場所として、水辺と親しむ観光交流拠点・情報発信拠点となるよう整備を進める。

キャッチコピー

流水タウン網走  
～人と“海の自然”が出会う場所～



## 2. テーマと展開方針(1)

1)「おーろら」が就航する多目的ターミナルの必要機能の検討	<p>)網走ならではの『食』の提供</p>	<p>・オホーツクの水産物(活き粹き 7珍など)、畑作物、農畜産物など網走ならではの食材と料理の提供            市民と観光客がともに楽しめる屋台村などの設置検討            季節ごとのイベントの開催など実験的な試みからの展開            活き粹き 7珍のアピール、メニュー開発</p>
	<p>)来訪者の利便機能</p>	<p>・「おーろら」乗船者などを対象とした大型駐車場の設置            ・24時間対応のユニバーサルデザインのトイレの設置</p>
	<p>)網走の情報発信拠点機能(道の駅・海の駅)</p>	<p>・網走市内外の観光情報の発信拠点の設置            ・宿泊や体験ツアーなどの予約システム、市内の観光ガイドの提供などソフト面の充実            ・網走の自然と歴史を伝える施設、展示コーナーの設置</p>
2)川筋地区と中心市街地との散策ルートなど人の動線の検討	<p>)水辺のプロムナードづくり</p>	<p>・川筋地区を中継点とし、網走川の上流から網走港までを結ぶ水辺のプロムナードの設置            ・桜並木などの植栽、倉庫や建物などの景観面での配慮            ・流氷や知床連山などのビューポイントの設置検討</p>
	<p>)中心市街地との連携</p>	<p>・川筋地区と商店街を結ぶアプローチ道路の整備            ・商店街や公共施設などへの案内サインの充実            ・商店街と川筋地区の一体的なイベントの開催検討</p>
3)冬期だけでなく年間を通じた川筋地区の市民に愛される利活用方策の検討	<p>)水辺を活かした憩いの空間づくり</p>	<p>・水辺に触れられる広場、屋外ステージ、イベント広場などの整備            ・遊漁船やヨットなどの係留施設の設置</p>
	<p>)市民と来訪者がともに楽しむイベントの開催</p>	<p>・フリーマーケットや青空コンサートなどの開催            ・オホーツク流氷祭りや夏祭り、川祭(かわったさい)など既存のイベントとの連続性の工夫            ・川筋地区のキャラクターの設定検討</p>

## 2. テーマと展開方針(2)

4)「まちづくり」と連携した必要施設整備の検討	) 魅力的な集客機能の整備	・ 通年利用が可能なセンターハウス、屋台村、親水公園、駐車場、トイレ、商店街や観光地の情報発信拠点の整備
	) 中心市街地との連携のための基盤整備	・ 川筋地区と商店街を結ぶアプローチ道路のプロムナード化、案内サインの充実 ・ 川筋地区の来訪者の駐車場を中心市街地に設置するなどによる商店街を歩かせる工夫の検討
	) まちづくり実施主体の育成	食の提供、情報発信、イベントの開催などを運営、実施する市民や事業者などの実施主体の育成
	) まちづくり支援体制の充実	・ 先進地の視察、市民意向の把握、川筋地区整備のメリット・デメリットの検証などの支援 ・ 地区整備の実施に向けたまちづくり検討組織の立ち上げ
5) 網走川等も活用した市民、観光客参加の各種アクティビティ展開の検討	) 水辺を活かした体験メニューの充実	・ 水上タクシー、屋形船、カヌー、ヨットの乗船、クジラ・イルカウォッチングなど体験メニューの充実 ・ イベントなどの実質的な実施からの展開
	) 網走川を中心とした観光やイベントの開催	・ 網走川を舞台とした花火大会、釣りイベント、イルミネーションコンテストなどの実施 ・ 市民や来訪者にアピールするキャラクターの設定検討
6) 増加するアジア観光客に対するサービス等の検討	) 適切な情報サービス	・ アジア観光客に対応した網走市内外の観光情報の発信拠点の設置
	) 外国人観光客の誘致活動	・ 「チャーター(誘致)協議会」による誘致活動の実施 ・ 中国、韓国、台湾などへの訪問PR活動の実施 ・ 外国の観光関係者の招へい事業の実施 ・ 外国人観光客向けの「指さし会話ガイドブック」の作成 ・ 外国人観光客対応に向けての語学研修の実施

## 今後の課題の検討

1. 「みなとまちづくり検討会」を継続的に開催し、当面すぐできることを選定して実施に結びつけたり、将来の川筋地区の再開発整備に向けた詳細な検討を行うことが必要である。
2. 通年にわたった利活用に向けた実証実験的な展開を図りながら、市民や来訪者の認知度を高めていくことが必要である。
3. 「みなとオアシス」や「道の駅」などの認定などを念頭におきながら、広域的な交流拠点としての位置づけを明確にしていくことが必要である。
4. 川筋地区の整備をビジネスチャンスと捉え、商店街と川筋地区との具体的な連携方策を検討していくことが必要である。

